

普及活動情勢報告（平成 30 年 11 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ブランド米「土佐天空の郷」のPR活動を支援 ～田んぼアート収穫祭を開催～



収穫した稲を皆で結束

10 月 21 日、本山町吉延のほ場で、（一財）本山町農業公社、生産者、高知大学生など計 60 人が参加して、「田んぼアート」の収穫祭が行われました。「土佐天空の郷」の生産者が主体となって開催しており、「田んぼアート」の取組を SNS で発信することでブランド米を PR しています。

普及所では、稲の収穫・結束方法を指導するとともに、棚田を守る苦勞と重要性について説明しました。また、収穫後には、集落営農組織「吉延営農組合」のライスセンターにて、米の乾燥・調整作業を実演しました。

参加者からは、「収穫から出荷までの作業行程を学ぶことが出来た」「苦勞して作った米なので、購入して食べてみたい」といった声が聞かれました。

普及所はこれからもブランド米の販売促進活動を支援していきます。

中山間農業複合経営拠点の経営強化 ～青ネギの先進地視察～



青ネギの調製作業を視察

10 月 24 日、（株）大豊ゆとりファーム、大豊町役場と普及所職員の計 8 人が、香美市で青ネギ栽培の視察研修をしました。

普及所は、視察の企画や連絡調整及び現地への案内を行いました。当日は、作業調製場や育苗施設、生産ほ場などを視察し、園主から青ネギの経営概要について聞き取りをしました。

（株）大豊ゆとりファームの社員からは、「実際に現地を見たことで栽培方法が確認できた」といった声が聞かれました。視察後、青ネギへの関心が高まり、今後の有望品目として栽培に取り組むことになりました。

今後も、普及所は（株）ゆとりファームの経営安定化に向けて、計画作成や栽培技術の支援を行います。

今後の栽培について情報交換 ～「大豊とまと」が現地検討会を開催～



ミニトマト新品種について情報交換

10 月 26 日、大豊町の有機栽培トマト農家を中心となって組織する「大豊とまと（10 戸）」は、大豊町で現地検討会を開催し、農家 7 人が参加しました。

会では、JA ミニトマト部会が導入したミニトマト新品種を視察したほか、本年度の栽培状況や今後の改善点を情報交換しました。

普及所は、新品種の状況や各メンバーの生育と土壌等の調査結果を情報提供しました。

農家からは「視察した品種は、病害や裂果が少なく味も良好である。次年度から導入したい」「本年は夏場の高温で落花も多かった。新たな高温対策も検討したい」等の声がありました。

普及所は、今後も組織活動を通じて各農家の生産安定が図れるよう支援します。

決め手はグリッドだ！！読まれる紙面づくりにチャレンジ ～職場研修会開催～



講師から学んだ内容を今後の「紙面づくり」に生かす

10月30日、「わかりやすく、読まれる紙面づくり」について基本的な技術を習得することを目的に、普及所、中央東農業振興センターの職員13人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

人事課からの派遣講師を迎え、「読まれる紙面づくりにはルールがある。A4であれば縦に2～3分割のグリッドを作成するのは編集の基本中の基本である」ことや、読んでもらうための様々なテクニックを学ぶことができました。今までの紙面づくりを覆す講師の発言に衝撃を受けつつ、普及所の「GAP通信」を事例にグループ実習に取り組みました。

職員からは、「これからは縦2つにグリッドをとって紙面を作りたい」「箇条書きではなく、きちんと文章で説明する方が読まれることがわかった」等の意見がありました。

普及所は今後も職場研修を活用し、普及指導能力の向上を図っていきます。

障害者の力を借りて最高の干し芋を ～農福連携～



障害者がサツマイモを収穫

10月22～31日、土佐町溜井で嶺北地域の就労継続支援B型事業所を利用している障害者の方約15人が、干し芋用サツマイモ(80a)の収穫作業を行いました。

サツマイモの生産者と事業所の指導員が、つる切りやすき起こしといった機械作業を行った後、障害者が掘り上げてコンテナに詰めました。

作業を補助した指導員からは「利用者の適性に合わせて実習したが、10人集まれば効率的に作業できる。生産者に用意していただいたおやつが、障害者のモチベーションにつながった」、生産者からは「10人以上の人を集めるのは大変だが、障害者に来てもらえて助かった。来年のお願いしたい」といった声が聞かれました。

普及所は今回の農福連携をコーディネートしましたが、今後も障害者が活躍できる場面を設定し、農業分野での労力不足に対応します。

嶺北産ユズ玉を世界に ～輸出用ユズ玉の出荷作業～



輸出用ユズ玉の荷造り

11月1日に柚子部会員や町、JA等の関係者12人が参加し、大豊町のJA土佐れいほく大田口出荷場で、オランダ向けユズ玉の出荷作業が始まりました。箱詰されたユズは7日に関西国際空港からオランダに向けて出発。今季は11月末までに計1tを輸出することになっています。

嶺北産ユズのイメージアップを図ろうと、平成26年から取り組んだ輸出事業も今年で5年目。参加者の手際も良くなり、初日のこの日も約250kgの出荷作業を2時間程度で終わりました。

普及所は検疫や殺菌、選別作業を支援しましたが、夏期の高温と秋期の降雨による日焼けや病害の発生が見られたため、腐敗防止のための選別作業を徹底指導しました。

この日もマスコミ取材があるなど産地のイメージアップにつながっているため、今後も輸出拡大への取組を積極的に支援していきます。

平成30年度の普及指導活動の進捗状況を確認
～平成30年度嶺北農業改良普及所普及活動中間検討会～



目標達成状況はどうか？

11月7日に嶺北農業改良普及所研修室で、専門技術員4人、普及指導員11人が参加し、普及活動中間検討会が開催されました。

嶺北地域の重要な課題である「次世代につなげるれいほく園芸産地の再生」「中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり」「持続性のあるユズ産地の育成」について、実績及び下半期の活動方法を検討しました。

普及所からは「低コストで高齢者でも取り組める高温対策の新技术はないか」「集落営農の推進における優良な農業ロールモデル活動事例を教えてもらいたい」、専門技術員からは「指導内容が見える化できており、成果が出つつある」といった質問や意見が出されました。

普及所は検討会の内容を踏まえ、目標達成に向けて普及活動に取り組みます。

小学生に嶺北地域の農業を知ってもらおう！ ～出前授業in香川～



天敵に興味津々な小学生

11月13日、香川県高松市立花園小学校でJA土佐れいほく園芸部は出前授業を開催し、小学3年生42人に嶺北地域の農業を紹介しました。生徒たちはれいほく八菜や天敵昆虫について講義を受けた後、実際に天敵昆虫を観察し、「こうち野菜体操」で元気に体を動かしました。

普及所はれいほく八菜の1つであるカラーピーマンの講義と天敵の展示、説明を行いました。

生徒からは「天敵は作物には害を及ぼさないのか」「吸虫管を使うときに天敵が口に入ったりしないか」など多くの質問が出され、嶺北地域の農業に興味を持ってもらうことができました。

今後も普及所は、嶺北地域の農業について広く情報発信していきます。

地元産堆肥で生産したサツマイモで美味しい干し芋を作ろう！

～6次産業化支援チーム会～



収穫されたサツマイモ

11月19日、普及所で生産者2人、専門アドバイザー1人、普及所職員1人が参加し、6次産業化支援チーム会を開催しました。

地元産牛ふん堆肥を使用したサツマイモ15tの加工販売について検討し、ほぼ全量干し芋で販売することになりました。また、前年の1.5倍の製造になるため、OEMによるペーストでの試作販売、4月以降の長期販売にも取り組むことになりました。

生産者は「今年は長期販売の干し芋需要を想定して加工する」と意気込んでいました。

普及所は会議の進行役として取組の方向づけを行いました。今後は、長期販売の需要動向調査等販路開拓を支援していきます。